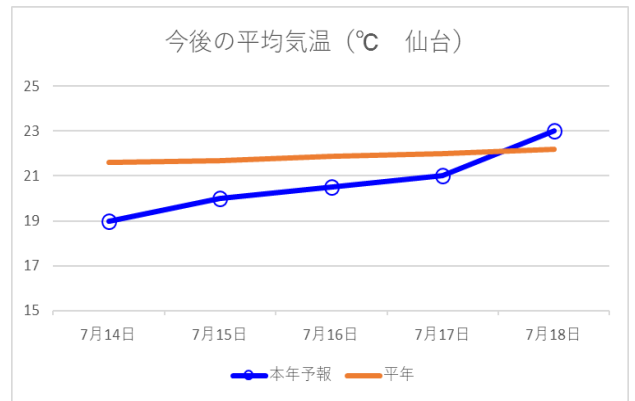
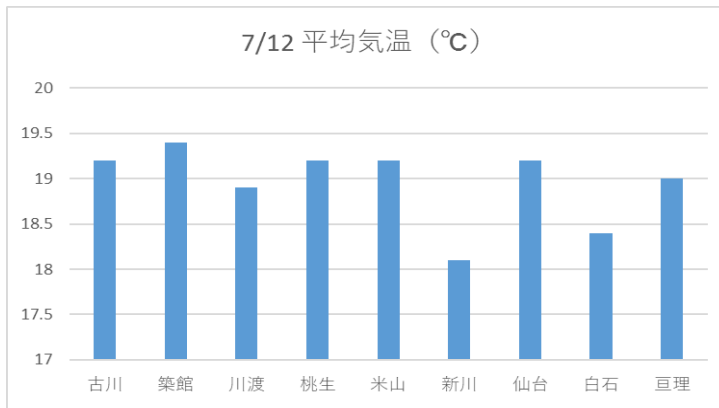


～ **注意喚起** 7月12日からやや低温，水管理を万全に！！～

1 令和2年7月12日～(県内アメダス)

- ・ 県内いずれの地域のアメダス平均気温が20℃を下回っている。
- ・ 現在，中干を実施しているため，水田内に水が無い圃場がある。
- ・ 気象庁の2週間予報では，低温傾向が数日続くとなっている。

※水稻は，幼穂発育期間になっており，平均気温が20℃，最低気温が17℃を下回る日が数日続くと障害が出るといわれている。



2 幼穂生育状況 (古川試験場の作況圃，加美多収圃)

- ・ 幼穂：7/1 現在で5/1 植2.4mm，5/10 植で0.4mmとなっている。
- ・ 7/10 時点では，数ミリから数センチになっていると思われる。
- ・ 早生である「ゆみあずさ」は，7/9 現在で1.5cm～8.3cmであった。



3 今後の管理

(1) 深水管理で障害回避

- ・ 前歴深水管理は，幼穂形成期に深水管理をすることで危険期（減数分裂期）のみの深水管理よりも，障害が軽減されるので，積極的に深水管理する。
- ・ 水田センサーのデータを見ると，水田内の水温は用水温度より数℃高い。
- ・ 危険期に低温が予想される時は，できうる限り深水管理とする。
- ・ 山間部や低温掛水田では，アメダス値より気温が低いことが予想され特に注意が必要である。